



全国学力・学習状況調査とNRT(標準学力検査) ～結果と分析～

本校では、4月に6年生が「全国学力・学習状況調査」(国語・算数・理科)を、3年生～5年生が「NRT(標準学力検査)」(5年生は国語・算数、他の学年は算数)を実施し、子ども達一人ひとりの学力の定着状況の確認とともに、教職員の指導方法の改善に役立てています。個別の結果等については、すでにお知らせしてありますが、全体的な調査結果と分析ができましたので、以下の通りお知らせいたします。

【全国平均との比較】

○全国学力・学習状況調査では、全ての教科(国語・算数・理科)で全国平均を上回る結果になりました。

○NRTでは、ほとんどの学年が全国平均を上回る結果になりました。

【学力調査からみられる本校児童の特徴】

○国語Aでは、「慣用句」「敬語」「言葉のきまりや使い方」に未定着の課題がみられるものの、その他の問題は平均を上回るものが多く、基礎基本の力は概ね定着していると思われます。

○国語Bでは、結果を見ると目的に応じて文章の構成を考え、必要な内容を整理して書く力についてはついてきていますが、文章の意図をしっかりと読み取る力に関してはやや課題があると思われます。

○算数Aでは、小数の除法の意味についての理解にやや課題が見られるものの、数量の関係を理解し数直線上に表したり、除法で表すことができる二つの数量関係や円周率の意味の理解の部分では大きく上回っており、全体として基礎基本に関しては概ね定着していると思われます。

○算数Bでは、グラフを読み取る力にやや課題はあるものの、全般的には全国平均を上回っている結果から、活用力がついてきていることが分かります。

○理科では、電流の変化についてやろ過の適切な操作方法など「知識」に関する問題の正答率が高く、全国平均を大きく上回っていますが、流れる水の働きに関する設問など地球に関する分野の定着が弱いことが分かります。

○NRTでは、3年生の数と計算、量と測定でやや下回る結果でしたが、その他の問題は大きく平均を上



回っていました。4年生は、全般的な数の計算が強みである反面、口を用いた計算と表や棒グラフは全国平均を下回る結果でした。昨年に比べ強みが増えており具体物を使った学習や反復練習などの取り組みが大きく影響していると推測されます。その他の量と測定、図形は平均を上回っていました。5年生の算数では、図形と数量関係の問題で全国平均を上回っていましたが、数と計算、量と測定では下回っています。全般的にはやや下回っている結果ですが、正答率の分布をみると二こぶになっており、基礎学力に上位と下位の差があるように思われます。国語では、目的に応じて書くこ

と、説明的な文章や文学的な文章を読むことについての理解は全国平均を大きく上回り、その他の問題では全国平均をやや上回っていました。

【児童質問紙からみられる本校児童の特徴】

○「自分にはよいところがありますか」では、全国平均を上回り、本校の昨年度までと比べても向上しています。学校づくりビジョンの「自己有用感を向上させる取り組み」が反映されていると考えます。また、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では、全国平均を25ポイント以上も上回り、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、10ポイント以上も上回りました。これは、本校の取り組みの成果であるとともに、子ども達の素直さや誠実さの表れであると言えます。

○家庭学習に関しては、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」では、「している」の回答が全国平均を6ポイント上回りました。そのうち、「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」では、「している」が全国平均を16ポイント以上上回り、「予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」では、全国平均より23ポイント以上が「している」と回答しています。学校から「家庭学習のてびき」をだしたり、子ども達の自主学



習のよいノートを紹介したりするなどの取り組みが効果的であったと考えられます。

- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」では、「どちらかといえば」と回答した児童も含めて、全国平均を15ポイントも上回っています。これは学校が地域と連携し、地域の協力を得て教育活動を進めたり、子ども達が地域の方々から大切にされ、子ども達の生活が地域に密着していたりすることの表れであると考えられます。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」では、15ポイント全国平均を上回りました。これは、学校の取り組みとして、ホワイトボードを活用しながら個々の考えを伝えあって話し合う活動を大切にしていることが大きな要因の一つになっていると思います。
- 「地域のボランティア活動への参加」では、全国平均より13ポイント下回りました。社会貢献活動の体験が不足しているように見えますが、子ども達は、低学年の児童に積極的に関わり手助けする姿が見られます。また、児童会を中心に、ユニセフ募金活動や赤い羽根共同募金活動に積極的に取り組んで、たくさんの募金が集まっています。地域の方に慰問を行うグループを立ち上げて活動を行う子ども達もいます。このことから「ボランティア」という言葉の受け取り方にズレがあったように思われます。



【指導の工夫と授業改善】

- 「書くこと」では、物語を読んで感想文を書く取り組みや説明文を読んで報告書を書く取り組みで、段階を踏んで指導したことが効果的であったと考えられるので継続して指導する。

- 「言語」では、朝の学習の時間を有効活用し、継続して漢字の習熟に取り組む。



- 「話すこと」については、話す場を多く設定して話すことに慣れさせたり、自分の話し方を振り返る機会を持たせたりして話す力を付ける取り組みをさらに充実させる。

- 算数の学習では、「なぜそうなるのか」と考えることを大切に、単なる暗記ではなく公式を忘れてしまっても導き出せたり、記憶に残りやすくしたりする指導を継続していく。

- 「めあて」と「振り返り」を意識した授業の流れの徹底や板書の工夫、ノート指導を充実させることにより、学習内容の定着を図る。

- 下学年の基礎・基本を家庭学習で復習させることにより、学習内容の定着を図る。

- 家庭学習の時間を増やすために、宿題の定着化、自主学習の推奨、自主学習ノートのよい見本の提示、励ましの言葉がけなどを継続して粘り強く行う。

- 長期休業、業間の時間、放課後の時間等を利用した補充学習を行う。

- 保幼小中の連携や学年間の連携した取り組みを充実させ、段差のない教育の実現を目指す。

学力調査の全国平均との比較、本校児童の特徴などこれらの分析結果を踏まえ、上記のように指導の工夫や、日常的な学習の強化に学校全体として取り組んでいきます。保護者の皆様にもゲームや携帯、スマホについてのルール作りや地域のボランティア活動への参加など、児童の地域や家庭での生活リズムの定着に向けてのご協力をよろしくお願いします。

運動会 大成功！ ～みんなで協力し赤も白も最後まで全力でやりきった運動会～

先日の運動会では、保護者の皆様から子どもたちへの温かいご声援・ご支援をいただき、本当にありがとうございました。運動会の取り組みを全力でやりとげることができた子どもたちにとって、またひとつ大きく成長する機会となったことでしょう。

また、会場レイアウトを変更して初めての運動会ということもあり、多少不安のある運動会でしたが、たくさんの方のご協力もあって、子ども達にとっても満足できる運動会になったのではないかと思います。

最後に、運動会のスムーズな運営にご協力いただきましたPTA本部役員の皆様。皆様のご協力のおかげもありまして「みんなで協力し赤も白も最後まで全力でやりきろう！」のスローガンのもと、最高の運動会にすることができました。ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

